

四季の歌

心映の投句
俳句・短歌教室の詠歌紹介

ひっそりと朽ちたる幹のくぼみよりすみれ紫顔のぞかせる
十人が射場に並び矢を放つ弦音と的を射し音響く
今年また満ちたる桜みあげたる花のころの伝はり来むか
年毎に花との別れ思ひたる咲き満つ桜に今年も逢ひたり
無人駅に咲きし桜菜の花が乗降客を誘ふごとく

加治 智子
福田 昌
辻田 幸也
三村 和子
越智 早苗

サンヒルズふくち会・はな句会
池田一步選

風変わり色の競演山緑
親雀子雀探しに忙しき
鯉幟窓の景色として泳ぐ
川風に連なり泳ぐ鯉幟
福智嶺の緑に映えてうるはしく
道灌を偲ぶ山吹色開けて
鯉幟大和男の子の旗印
老いどちの歩こう会に初夏の風
今年また仰ぐ夏山寿
牡丹の今年も確かな芽を出しぬ
出養生一日大事に麦の秋

持丸テル子
中西ナルエ
永末 公恵
宇野美奈子
大堀まさる
熊谷カツミ
田口さとし
本島真智子
桑野園女
柴田ヒサエ
池田 駒女

福智町金田公民館俳句教室
岩井鬼童選

青柳午后を眠たき乳母車
チューリップの家より高し園児の絵
逢へば泣く母の小さき山笑ふ
鐘一打々々に春を惜しみけり
金平糖角より溶けて春暑し
沈丁の香に包まれて庭手入れ
磯桶を担ぎて海女の足軽し
春暁の牧は鶏鳴き牛が鳴く
ランドセル肩にも馴れて進級す
忘れぬ軍歌よ靖国祭来る

建部三由紀
日比生利子
松岡 蒿枝
永尾喜美江
長副美恵子
迫田 昌子
今井三千代
小川 雪
吉村ヨシ子
花石かほる

方城句会
池田一步選

チューリップ夜の眠りを知ってをり
春雷や明治の人の野辺送り
道筋に山車の軌跡や祭果つ
溪谷の残雪見せて伯耆富士
薫風やこの侍せに深呼吸
山藤の連なる麓景境
惜春や姉のみ霊の永しなへ
母の日の花屋の花かご歩道まで
進学や堅忍不拔を孫に願ふ
製鉄のぼんやり浮び夏霞

野村 鈴子
長尾 冨子
桑野 昌宜
白石 凡子
渡邊 一枝
尾崎 和子
藤井耿之介
杉 フジエ
倉石嘉代子
木村 誠一

福智の風

▶4月の人事異動で編集体制が変わり、これから偶数月の広報を担当することになりました。今後も引き続きよろしくお願いいたします。
▶同じものを見聞きしても、その人の経験からくる価値観などによってとらえ方が違うため、広報紙も担当が変わると違いは出てきます。当然、読んだ人の受け取り方もまたそれぞれで、そこにはっきりとした“正解”は無いのではと思います。
▶今まで“こうならなければ”という高い目標がありました。今回の特集を進めていくうちに、“わたしらしさ”を見失ってはいけないと気づかされました。自分なりの力を注いだ今月号。いたらぬ点もあるかと思いますが、“らしさ”を感じてもらえると嬉しいです。(日吉)



1 開花時限定のエドヒガン調査、広谷の山肌を目指す。2 うっそうとした中を約1時間登る。3 桜の下に到着、周囲2m・推定樹齢100年未満と判明。4 山桜が隣在し、紅白の彩りが鮮やか。5 記録する熊谷信孝先生。6 貴重な石灰岩地の竜ヶ鼻。7 ここに群生する希少種のイワシデ。

Pickup Topics

福智山麓の自然と植物

主管／福智町教育委員会・福智町文化財専門委員会

希少植物の調査進む



福智山とその麓には、険しい地形や地の利に守られた数々の希少植物が、今もたくましく息づいています。町では、絶滅危惧種を中心とする植物の把握と、県内唯一ともいわれる貴重な植物の調査を着々と進めています。



植生調査をする文化財専門委員の熊谷信孝さん(上野)。「植物保護は採らないこと切らないことが基本」と周知を呼びかけます。

福智町の象徴的存在である福智山。その美しい稜線は、心の癒しや安らぎをもたらしてくれる原風景ですが、そこに一歩足を踏み入れると、普段は知ることのない、豊かな自然に圧倒されます。「エドヒガン群や好石灰植物群など、県内でもここで見られない、標本的で貴重な植物があります」と、文化財専門委員の熊谷信孝さんは、この町に生育する植物の希少性を解説します。

町には、虎尾桜に代表される希少種



広谷地区を中心とする希少植物の保護活動に尽力している高津茂さん(伊方)。今春のエドヒガン調査の案内も務めていただきました。

エドヒガンが50本以上確認され、このような規模の群生は県内で唯一といわれています。また、伊方広谷地区の竜ヶ鼻を中心とする石灰岩地には、特有の絶滅危惧種が多数確認されています。町では現在、エドヒガン群をはじめ、石灰岩地の踏査を進めています。このような詳細な現状把握が、将来的な保護指定を可能とし、植物の宝庫を守り、後世に伝えるという、かけがえのない役割を果たすことにつながっています。